

今日のトピック 最近の指標から見る欧州経済（2015年11月）

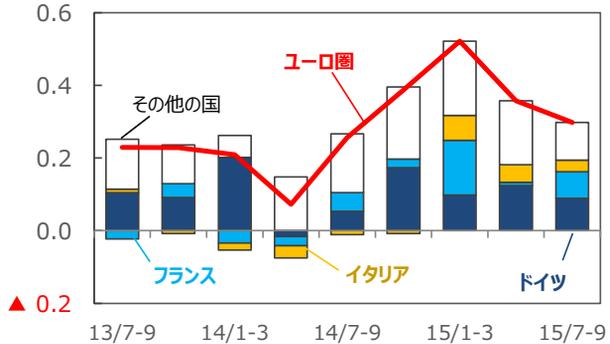
追加金融緩和と財政拡大で緩やかな景気回復持続へ

ポイント1 景気は緩やかな回復持続

消費がけん引

- ユーロ圏の7-9月期の実質GDP成長率は前期比+0.3%と前四半期から鈍化したものの、緩やかな回復傾向が持続しています。
- ドイツ、フランス、イタリアの主要国がプラス成長で、雇用の改善から消費が底堅く、景気回復を主導しています。一方、輸出は、中国などの新興国経済の減速を受け減少し、設備投資も力強さに欠けています。

(前期比、%) ユーロ圏GDPと主要国の寄与度



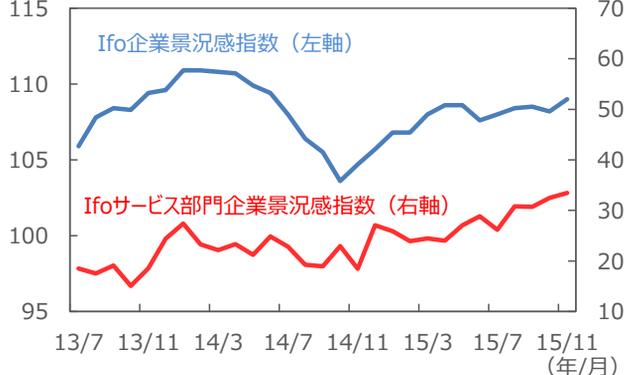
▲ 0.2
(注) データは2013年7-9月期～2015年7-9月期。(年/四半期)
(出所) 欧州統計局のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 ドイツの企業景況感改善

サービス部門も改善傾向

- 製造業などから構成されるドイツのIfo企業景況感指数の11月分は、前月から改善しました。サービス部門の企業景況感も改善傾向にあり、これが良好な雇用環境の背景です。これらの改善はこれまでのユーロ安や金融緩和の効果と考えられます。
- 10月のユーロ圏の消費者物価上昇率は、前年同月比+0.1%と低位で落ち着いています。原油安による物価の下落圧力は強く、欧州中央銀行（ECB）が目標とする2%近くへ上昇する動きは当面強まらないと見られます。

(ポイント) ドイツの企業景況感 (%)



(注) データは2013年7月～2015年11月。Ifo企業景況感指数は2005年を100とした指数。Ifoサービス部門企業景況感指数は、「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いて算出。中立は0%。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

追加金融緩和と財政拡大で、緩やかな景気回復が持続へ

- 新興国経済の減速などの景気下振れ圧力や低い物価上昇率から、12月にECBの追加緩和が予想されます。現行の量的緩和の規模拡大などにとどまらず、銀行の中央銀行に預ける預金金利のマイナス幅拡大も見込まれ、企業融資が拡大する効果が期待されます。
- 一方、難民問題や地政学リスクが景気に悪影響を及ぼすことが懸念されます。難民流入規制、シリア空爆強化、パリ同時多発テロ、トルコによるロシア機撃墜と問題が拡大しました。追加緩和の他にも、中核ドイツの財政拡大などにより、景気回復を持続させる動きが期待されます。

ここもチェック!

2015年11月20日 最近の指標から見る米国経済（2015年11月）
2015年11月16日 パリ同時テロ後の市場動向、影響は一時的か

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。